

「第13回定時総会および第54回理事会」開催される ～新会長に(株)SUBARU取締役会長 中村知美氏を選任～

(一社)日本航空宇宙工業会は、5月28日(火) ANAインターコンチネンタルホテル東京において、第13回定時総会および第54回理事会を開催した。

同日のスケジュールは以下の通り。

16時00分～16時30分	会長記者会見(一般紙／専門紙)
16時40分～17時30分	第13回定時総会
17時40分～17時50分	第54回理事会
18時00分～19時30分	懇親パーティー

1. 第13回定時総会

第13回定時総会には正会員85社中の52社の出席を得た。(他、委任状26社)総会は、満岡会長の所見(次葉)後、同会長により議事進行がとり進められ、全議案が滞りなく承認可決された。

第13回定時総会の議事内容は次のとおり。(議事要旨は「お知らせ」参照)

- 第一号議案 令和5年度決算の承認について
- 第二号議案 令和6年度会費の承認について
- 第三号議案 任期満了に伴う理事・監事の選任について
- 第四号議案 欧州防衛需要向けサプライチェーン構築センター運営委員会(仮称)に係る特別会計の設置(案)について

最後に満岡会長より退任の挨拶があり、拍手をもって閉会となった。



満岡 次郎 会長
(株)IHI 取締役会長



定時総会会場

満岡会長 第13回定時総会 所見

「日本航空宇宙工業会第13回定時総会」に際して、会長としてご挨拶をさせていただきます。

航空宇宙産業を取り巻く世界経済の動向は、新型コロナウイルス感染症の影響からの力強い回復が見える一方で、地政学リスクによる不確実性も高まっています。民間航空機分野では、世界の旅客需要が本年にはコロナ禍前の2019年のレベルまで回復することが見込まれています。防衛分野では、地政学リスクの高まりを受けて世界の各国で防衛予算が増加し、装備の近代化・充実化が進んでいます。宇宙分野では、安全保障目的を含めた、新たな宇宙利用サービスへの取組が拡大しています。また、宇宙利用やエアモビリティなどの新分野においては、スタートアップをはじめとした新規参入が活発化しています。このように、民間航空機、防衛、宇宙の各分野においては、需要の拡大が見込まれる一方、供給面ではサプライチェーン混乱、人材不足、インフレーションなどが持続的な成長への課題としてあり、これらを克服して行く必要があります。

我が国の2023年度の航空機生産額は1兆6,868億円（うち民間1兆2,067億円、防衛4,801億円）となり、2022年度の1兆4,087億円（うち民間9,576億円、防衛4,511億円）から2,781億円増加しました。ピークであった2019年の1兆8,569億円（うち民間1兆3,177億円、防衛5,392億円）にはまだ及びませんが、着実に回復しています。一方、先行指標となる2023年の航空機の受注は2兆円を超える過去最高レベルになりました。こうした受注拡大もあり、2024年度の航空機と宇宙機器を合わせた生産高は、コロナ禍前の2019年の2兆円を超える規模に回復することを期待しています。

民間航空機分野は、我が国機体メーカーが参画するワイドボディー機であるボーイング777X、787の受注が好調です。これらのワイドボディー機は、昨年開催されたパリエアショーやドバイエアショー以降も大型発注が発表されており、受注残が大量にあります。ボーイング社の品質問題により生産レートは本来の水準への回復途上ですが、日本としても、品質を確保した上で安定生産ができるよう体制を整備する必要があります。

航空エンジン分野は、ワイドボディー機に搭載されるGE9Xエンジン、GENxエンジン、Trent1000エンジン、そしてナローボディー機に搭載されるPW1100G-JMエンジンの受注が好調で整備事業と併せて大幅な事業拡大が見込まれます。PW1100G-JMエンジンの追加検査プログラムについては、プログラムパートナーと共に、運航への影響の低減と早期の信

頼回復を図ることが重要であり、そのための努力を関係社が行うことを期待しております。

完成機分野では、HondaJetが昨年、新型の小型ビジネスジェット機Echelon（エシュロン）の製品化決定を発表し、2028年の型式証明（TC）取得に向け開発をスタートしました。既存機種と同様にベストセラー機となることを期待しています。

次世代航空機については、経済産業省が新たに策定した「航空機産業戦略」に、今後10～20年にかけて、官民を挙げて取り組むべき道筋が整理されております。産業界としてもこの機会を逃すことなく、GX（グリーントランスフォーメーション）など次世代機に適用可能な技術開発やルールメイキングへの参画など、必要な施策を官と協調の上、取っていきたいと考えています。

防衛分野では、日本を取り巻く安全保障環境がより厳しく複雑化している状況を受け、一昨年、閣議決定された安全保障3文書において、日本の防衛力の抜本的強化が方針として示されました。また、昨年は「防衛生産基盤強化法」が成立し、防衛産業が防衛力そのものと位置付けられ、生産基盤の維持・強化のための施策が打ち出されておりますので、産業界としても、国の要請に応えられるよう、努めてまいります。

次期戦闘機（グローバル戦闘航空プログラム：GCAP）については、昨年12月に「グローバル戦闘航空プログラム（GCAP）政府間機関の設立に関する条約（略称：GIGO設立条約）」への署名が日英伊で行われ、体制整備が進んでいると承知しております。産業界としても、その開発に微力ながら貢献できるものと考えており、防衛政策当局とも連携を取りつつ、対応して参りたいと考えています。

宇宙分野では、昨年度、初号機の打上げに失敗したH3ロケットについて、不適合の可能性がある要因全てに対策を打ち、試験機2号機の打上げに成功しました。同じく昨年度、打上げに失敗したイプシロンロケット6号機についても原因究明と対策の検討が進んでおり、本年に打上げが再開されます。日本のロケットがH-IIの高い打上げ成功率を受け継ぎ、成功を積み重ね、世界の衛星打上げを受注できることを期待しています。

月探査では、昨年7月に打上げられた小型月着陸実証機（SLIM）が世界初の高精度着陸に成功しました。月面におけるピンポイント着陸だけではなく、放出された小型ロボット2機が自律的に連繫する素晴らしい技術的成果を得ることができました。これらの技術が今後、月に限らず様々な宇宙探査に繋がることを期待しています。

政策面では、昨年、閣議決定された「宇宙基本計画」に基づいて、JAXA（宇宙航空研究開発機構）に「宇宙戦略基金」が設けられ、民間企業、大学・研究機関等による技術開発、

商業化を支援する政策が打ち出されました。また、我が国が置かれた安全保障環境に鑑み、昨年、岸田総理を本部長とする宇宙開発戦略本部から「宇宙安全保障構想」が示されています。こうした動きは、宇宙がこれまで以上に重要かつ戦略的な領域と考えられるようになった証左であり、産業界としても、スタートアップ、大学・研究機関とも連携して、新しい時代を作ってまいりたいと思います。

我が国において将来的に宇宙産業を拡大していくには、コンステレーション形成に必要な多数の衛星を、より高頻度に打上げる必要がありますので、政府には宇宙機器を効率的に開発・試験するための施設及び打上げ射場の新設等、宇宙インフラについての一層の整備、拡充を期待しています。

最後に国際交流としては、7月22日から26日にかけて開催されるファンボローエアショーに例年以上の出展数となる12社の会員企業と出展します。また、10月16日から18日には東京ビッグサイトにおいて「2024国際航空宇宙展（JA2024）」を開催します。前回6年前の開催以降、航空宇宙産業を取り巻く環境は大きく変化し、大きな拡がりも見せています。そうした状況に鑑み、「宙空（そら）で織りなす、拡がる未来」をメインテーマとして、従来の出展分野のほか、SAF、水素、電動化といった脱炭素や、空飛ぶクルマ、ドローン、小型衛星利用、宇宙探査にもすそ野を拡げます。JA2024において、進化し発展する航空宇宙産業を広く国内外にアピールできるよう、万全の準備を進めて参ります。

以上のように、航空宇宙産業を取り巻く事業環境は、脱炭素、コロナ禍、安全保障環境の変化によって、非常に大きく変わりました。こうした状況においても、航空宇宙産業が幅広く技術革新を担う先端技術産業であり、経済を活性化し、安全保障に直結する重要産業であることをより強く肝に銘じて、日本の航空宇宙産業の発展に寄与すべく取り組んで参ります。

最後になりますが、皆様の一層のご支援、ご協力をお願い申し上げ、会長としての挨拶とさせていただきます。有難うございました。

2. 第54回理事会

総会後に開催された理事会において、任期満了に伴う新たな会長・副会長ならびに専務理事・常務理事を選任した。(理事14名中、出席13名)

新会長には、(株)SUBARU 取締役会長の中村知美氏が選任された。新副会長には、三菱重工業(株)執行役員 防衛・宇宙セグメント長 江口雅之氏、ナブテスコ(株)代表取締役社長 最高経営責任者 木村和正氏および(株)プロテリアル 執行役員 特殊鋼事業部長 毛利元栄氏の3氏が選任された。また専務理事として藤野琢巳、常務理事として山岡建夫と佐藤幸喜が選任された。

第54回理事会の議題は、次のとおり。(議事要旨は「お知らせ」参照)

第一号議案 任期満了に伴う会長の選任について

第二号議案 任期満了に伴う副会長の選任について

第三号議案 任期満了に伴う専務理事・常務理事の選任について

当工業会の会長・副会長ならびに理事・監事は次の通り。

(1) 会長・副会長



会長 中村 知美
(株)SUBARU 取締役 会長



副会長 江口 雅之
三菱重工業(株)
執行役員
防衛・宇宙セグメント長



副会長 木村 和正
ナブテスコ(株)
代表取締役社長
最高経営責任者



副会長 毛利 元栄
(株)プロテリアル
執行役員
特殊鋼事業部長

(2) 理事・監事（会長・副会長を除く）

当会役員	氏 名	会社名	役職
理事（非常勤）	石 田 正 俊	川崎重工業株式会社	執行役員 航空宇宙システムカンパニー バイスプレジデント
	佐 藤 篤	株式会社 I H I	常務執行役員 航空・宇宙・防衛事業領域長
	山 本 晋	株式会社島津製作所	執行役員 航空機器事業部長
	板 倉 健 郎	住友精密工業株式会社	副社長執行役員
	佐 藤 智 典	三菱電機株式会社	常務執行役 CTO（技術戦略担当） 防衛・宇宙システム事業本部長
	永 野 博 之	日本電気株式会社	執行役Corporate EVP 兼 エアロスペース・ナショナル セキュリティビジネスユニット長
	並 木 文 春	株式会社 I H I エアロスペース	代表取締役社長
理事（常勤） 専務理事	藤 野 琢 巳	元・通商政策局通商交渉官	
理事（常勤） 常務理事	山 岡 建 夫	元・防衛装備庁電子装備研究所長	
	佐 藤 幸 喜	元・航空自衛隊 補給本部 副本部長	
監事	阿 部 俊 之	株式会社ジャムコ	代表取締役会長
	小 林 修	一般財団法人 日本航空機開発協会	専務理事

3. 定例会長記者会見

（一社）日本航空宇宙工業会は第13回定時総会に先立ち、一般紙・専門紙への定例記者会見を開催した。満岡会長、中村新会長の挨拶の後、質疑が行われた。

〔時間：16:00～16:30、於「ギャラクシーⅢ」〕

（1）出席者

新聞社・報道機関：新聞社・報道機関：日本経済新聞社、日刊工業新聞社、WING、日刊航空
軍事研究、Jウイング、航空ニュース、航空関係ジャーナリスト（2名）

当工業会出席者：満岡会長、中村新会長

〔事務局〕藤野専務理事、山岡常務理事、佐藤常務理事、他関係者

（2）配布資料 第13回定時総会満岡会長所見

2023年度航空機生産額（速報値）等



満岡会長



中村新会長



記者会見会場

4. 懇親パーティー

(一社)日本航空宇宙工業会は、第13定時総会終了後、ご来賓を招いた懇親パーティーを開催した。当日は、関係官庁、学識者、在日外国企業、報道関係者ならびに会員企業等、幅広い方面から約550名の方々にご参集をいただいた。

冒頭、満岡前会長の退任挨拶、中村新会長の就任挨拶に引き続き、ご来賓の方々（以下）よりご祝辞をいただいた後、江口副会長による乾杯の音頭によって始められ、和やかに懇談に入った。

ご 来 賓



齋藤 健
経済産業大臣
兼 内閣府特命担当大臣



盛山 正仁
文部科学大臣



鬼木 誠
防衛副大臣
兼 内閣府副大臣



平沼 正二郎
内閣府大臣政務官
兼 復興大臣政務官



パーティー会場の様子

左から三宅防衛大臣政務官、高見防衛大臣補佐官、松本防衛大臣政務官、平沼内閣府大臣政務官、盛山文部科学大臣、齋藤経済産業大臣、中村新会長、満岡前会長

中村新会長 就任挨拶

先ほど開催されました理事会におきまして、一般社団法人日本航空宇宙工業会会長に選任されました中村知美でございます。

私はSUBARUの出身でありまして、専門分野は申し訳ありませんが自動車となります。勿論長年にわたりSUBARUの航空宇宙部門を見てきましたので、まったくのド素人ではありませんが、これまで以上に航空宇宙分野における知識、知見を深め、また皆様方からのご支援を頂きながら、この重責を果たして参りたいと思っております。どうぞよろしくお願い申し上げます。

また満岡前会長におかれましては、これまで業界の発展に多大なる貢献をなされたことに、深く感謝と敬意を表する次第であります。今後もしっかりと引き継いでまいりたいと思っております。本当にありがとうございました。

さて、つたない私の知識と経験をもとに、私なりに現在の航空宇宙産業の事業環境を鑑みてみたいと思います。

先ず、民間機分野です。

我が国の民間機分野は、コロナ禍、そしてそれ以降も厳しい事業環境が続いております。マクロ視点では「長期的に右肩上がりの成長」が期待される分野と認識しておりますが、一日でも早い回復にむけて工業会としても取組んでまいりたいと考えています。

このようななか、経済産業省では産官学で議論を重ね、3月の産業構造審議会の会合で、次世代航空機について、官民一体となって2035年以降の事業化を目指すとした、国内航空機産業を大きく成長させようというビジョンが示されました。

次は、防衛機分野です。

世界の平和・安定に果たすべき我が国の役割は益々高まっております。防衛3文書に基づき、防衛費予算が大幅に増額され、防衛省において各事業を適確に執行していくための「防衛力抜本的強化実現推進本部」が設置されました。

また、次期戦闘機に関しては「グローバル戦闘航空プログラム 政府間機関の設立に関する条約」への署名が日英伊で行われ、開発体制の整備が進んでおります。この状況下において、我々工業会への期待が更に高まってくるものと認識しております。

最後に宇宙分野です。

政府の「宇宙産業ビジョン2030」において、2030年代の早期に市場規模を2倍にする目

標が掲げられました。民間企業、大学による技術開発、実証試験、そして商業化を支援する目的で、今後10年間で約1兆円の「宇宙戦略基金」が創設され、新興企業の参入が期待される分野であります。

また、航空自衛隊では、宇宙分野での防衛活動を本格化され、「航空宇宙自衛隊」と改称されると伺っております。工業会としてもこれまで以上に宇宙分野への取り組みを強化していく必要があると捉えております。

自動車産業においては「100年に一度の大変革期」と数年前から言われておりますが、このように航空宇宙産業においても、過去に例をみない、従来以上のスピードで、はげしい変化が興っています。

安全保障・防災・脱炭素などサステナブルな社会への課題対応とその実現に向けて、経済産業省、防衛省、内閣府、文部科学省をはじめとする関係当局、並びに関係する諸外国との連携をより一層強化しながら、オールジャパン体制で皆様と共に挑戦してまいりたいと思います。

最後に、今年秋10月16日から「2024年国際航空宇宙展 JA2024」を東京ビッグサイトで開催いたします。前回は2018年の開催でしたので6年振りとなります。我が国の航空宇宙産業の振興・貿易の拡大の場として貢献できるよう、万全の準備を進めてまいります。

皆様の多大なるご支援に感謝申し上げますとともに、今後ともご理解、ご協力をお願い申し上げます。就任のご挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。